

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971000431		
法人名	ホームケア株式会社		
事業所名	ホームケア香芝 I・II		
所在地	奈良県香芝市五位堂6-220-1		
自己評価作成日	令和5年6月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyoCd=2971000431-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地大和ビル3F
訪問調査日	令和5年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個の尊厳をモットーにひとりひとりを大切に日々取り組ませて頂いています。利用者の皆様がいつも笑顔で生活して頂く為、得意な事、出来る事を生活の中で役割として持って頂き、個別支援の充実を目指しています。市の介護福祉課・地域包括センターとも密な連携をとりより良い施設を目指して行く為、指導、意見には積極的に耳を傾け相談できています。ご家族とは面会の際の対話、定期の連絡時など意見をいただけるよう報告、連絡する事で信頼関係を築いていけるよう努めています。また、市のイベント、秋祭り、ボランティアの方によるイベント等社会資源を活用し地域の方々には施設内容などを周知していただけるように活動しています。その結果他事業所からの入居紹介も増えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、香芝市南東部の住宅地の一角にあり、JRや近鉄の駅から近くて便利などところにある。建物は、鉄筋造り2階建てで2ユニットのグループホームである。コロナ禍のため利用者の楽しみである外出や外食ができなかったが、これを機に職員が事業所内で利用者で元気にする取り組みを工夫した。イベントを企画し、そうめん流しをしたりタコ焼きやお好み焼きをして、利用者と職員と一緒に食べ楽しんだ。「個の尊厳」「自分らしく」の法人理念に加え、「ひとりひとり」「待つ介護」というグループホームの理念を掲げている。利用者個々の残存能力を最後まで活用することを目標に、しっかり見守りながら手を出しすぎない介護を目指している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲げ「個の尊厳」・「個人情報の保護」などの研修、日々のカンファレンス等職員全員で理念を共感し実践に取り組んでいる。ホームの理念である「ひとり、ひとり」は個人を観察し、その方に応じたケアを模索しながら取り組んでいる。	パンフレットに「個の尊厳」「自分らしく」の理念を記載している。手を出しすぎる介護ではなく、できる事は自分でして頂き「できるまで待つ」介護の実践に努力している。利用者のできる能力(残存能力)を最後まで持続して頂きたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年定期的に交流をはかっているボランティア、運営推進会議等、今年はコロナ禍により自粛の為、交流ができていない。	コロナ禍前まではボランティアに着て頂いたりしていたが、コロナ禍になり地域との交流は自粛していた。ただ5類になった今、だんだん地域の行事も以前の状態に戻りつつあり、利用者の夏祭りへのお誘いを受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員全員が地域の方に役立つ事業所でありたいとの思いで接している。職員についても近隣住民が多く在籍しており、気軽に相談に来ていただけるよう取り組んでいる。見学、相談など、コロナ感染予防対策を行い対応している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R4年3月より、介護福祉課、地域包括の職員様参加での推進会議を行っています。コロナ禍における施設の相談事、入居者のご様子等をお伝えしサービス向上に活かしていくように努めています。ご家族様には、お便りや面会時にお伝えしています。	運営推進会議は、市の介護保険課職員若しくは地域包括支援センター職員、事業所の職員と家族が参加している。お誘いはしているが、今のところ民生委員等の地域の代表の参加は得られていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度の入居状況の報告、地域高齢者サービスについての相談・苦情・入居依頼のお客様の相談・事業所の運営の相談を含め担当者と信頼関係を築くよう努めている。地域包括支援センター主催の研修会等にも出席し、市の運営するデマンドタクシーの停留所の指定も受け連携を図っている。	運営推進会議へ市職員が参加した際に事業所の情報を伝えと共に、市役所からの情勢を聞いて運営に活かしている。市の担当課にはホーム広報便りを届けている。生活保護の利用者がおられるので、保護課と連携して支援している。また、市のBCPの検討会に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害についての研修を継続的に行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関については夜間以外施錠することなく、日頃のケアについても拘束をしないサービスの検討を行なっている。	現在、身体拘束の事例はない。身体拘束委員会を2ヶ月に1回開催し研修しており、常に身体拘束に当たらないか考えながら支援して。病院から向精神薬を服用されて入居してくる方もいるが、事業所では薬を飲まなくても生活できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止関連法」「気づかない虐待」についてマニュアルや事例報告等により定期的な研修を行っており虐待について厳しく受け止めながら日々のサービス提供にあたっている。毎月、廃止委員会議事録の閲覧を義務付けしている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の受け入れ相談時ご家族や関係者とはそれらについて話し合っている。また成年後見等必要な方の受け入れの事例を運営推進会議等で支援内容を報告し、制度を理解し必要な方に活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は担当責任者が十分な説明を行い理解・納得して頂いている。入院時など必要な場合は何度でも説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等の意見・不満・苦情には迅速に対応しており運営に反映できるように努めている。面会時には近況報告や相談を兼ねての面談、推進会議での施設状況報告、目安箱を設置、電話やメールにて意見・要望を引き出せるよう信頼関係を築く努力をしている。	家族の意見や要望は、面会時に聴いており、面会の少ない家族は、メールのやり取りで聴いている。コロナ禍が明け、事業所がどこかへ外出させてくれるのか、家族と外出・外食ができないのかという問い合わせが増えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	情報は全員に伝えており夜勤者、日勤者の意見を聞き取りケアに反映しています。	管理者は職員の個別面談は行っていないが、ともに働く中で常に職員に目を配り、その都度アドバイスをしている。職場での人間関係や個人的な悩みも聴くことがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本残業はない職場に出来ている。管理者や職員の努力・実績・勤務状況を把握し、管理者より各職員に状況を伝えていくことで各自が努力し、向上心を持ち働けるようにパート職員にも資格手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員を育成する為、研修を受ける機会を確保しており計画的な内部及び外部研修の参加の機会を確保し、職員育成を行なっていく。介護技術等は、働きながら指導。トレーニングし、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度弊社の各管理者と会議を開催し、施設内の問題点等話し合い改善策を練っている。R4年度から3ヶ月に一度「グループのわ」を通じて香芝市のグループホームの管理者様と意見交換の場を持ち、情報共有する場を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接本人と話す機会をゆっくり持っている。ご家族等本人の身近な方にも直接お話を聞きより多くの情報を得ている。得た情報、要望に対しては出来る限り実現、実行するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心・納得されるまで電話、メール等で頻りに話をする機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の意向をしっかり聞き取り本人とご家族が一番必要としている支援を見極める対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と生活を一緒に過ごさせて頂きながらご本人の想いを共感し多くを学ばせて頂きながら支えあう関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご苦労や想いに共感・理解し信頼関係を築きながらご家族と共に本人を支えている関係を築いている。月に一度お便りを発行し、家族様に施設内のご様子をお知らせします。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ禍ではあったが、散歩等で近隣の方とお話しをする機会を持つ。	コロナ禍前は、利用者の友人が面会に来てくれることもあった。手紙のやり取りをする方もいる。故郷のお墓に連れて帰ってあげたいとの家族の願いを受けて、ホームで出来るリハビリをし、本人の努力で無事にお墓参りが出来た事例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好な関係になれるよう利用者の状態、性格等考えながら支援している。また問題発生時は直ちにカンファレンスを行い改善を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の相談を受け対応させて頂いている。荷物の後始末・挨拶等一緒にさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや暮らし方の希望を介護計画書に折り込みカンファレンスで話し合い把握し、介護計画に基づいて統一した援助を実行している。	入居前の面談時に、事業所での暮らし方の希望を聴いている。自宅から入居する方は、自宅を訪問して聴くこともある。入居後も、本人や家族から思いを聴いている。大切なことは、申し送りノートに記入して職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴や生活環境等の把握に努め、日々話題等支援内容に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況の変化を観察し、その場に合った内容を話し合い申し送りしながら統一した援助を心かける。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所前に事前情報を基に本人、家族とカンファレンスを行い、入所後については業務の中で職員から意見を聞き介護計画を作成している。本人の意向が反映されるよう毎月ケース会議を行なっている。	管理者と職員で話し合っ介護計画を作り、それを家族に説明し、ご意見がなければ同意の印鑑を頂く。介護計画は、利用者に変化があればその都度見直しをしている。変化のない方でも、半年に1回更新している。	家族アンケートによると、ケアプランについて説明は受けたが、話し合いはしていないとの回答の数が多かった。介護計画を更新する前に、本人や家族が参加するカンファレンスを開き、意見や思いをくみ取る取り組みが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日利用者の介護記録を記入し変化については申し送りやカンファレンスを行い情報の共有・計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の対応は全て受け入れその他個別の対応も要望に応じている。入退居の荷物の搬入・搬出支援、送迎サービス・介護用品の購入の相談支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通常時は地域ボランティアの定期訪問によるレクリエーションや外部法人によるボランティアなども積極的に取り入れ利用者様に楽しんで頂けるよう支援しています。今年は、地域のお祭りも開催され、御神輿を楽しむことが出来ました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医療機関はあるが馴染みや希望の医療機関を希望される場合、情報提供しながら連携するよう努めている。協力医療機関との連携が整っており24時間相談できる体制になっている。	事業所の内科のかかりつけ医が、月2回の訪問診療を行っている。歯科は口腔ケアを含め、希望者のみ訪問診療がある。入居前にかかりつけ医を選択する事も可能だが、入居者全員が利便性を考えて事業所のかかりつけ医を選んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況把握に努め主治診療看護師との連携、協力医療機関看護師と24時間相談できる体制があり、日々の健康管理や医療相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、早急に介護サマリーを提出し、病院関係者(入院病棟の医師・看護師)と連携し早期退院できるよう情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族の意向を確認し状態の変化時には主治医より説明本人・ご家族の意向の把握を行っている。情報を基に対応方針を定め職員間で情報を共有し主治医と共に職員ができる事できない事の見極めを検討し医師や訪問看護ステーションと連携し支援している。	看取りの指針と同意書を作成し、協力病院の医師や訪問看護師と連携して看取りを行っている。看取りのケアプランを作り、変化する利用者の状況を詳細に介護記録に残し、職員は現場を経験しながらターミナルケアを学んでいる。今年は1名の方を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがありマニュアルに沿って研修を行い対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防点検、火災等のマニュアルにそった防災訓練、消防署の方にも協力頂き定期的に行っている。被災時の応援には近くには住む職員が駆け付け対応する。災害時に備え、数日分の飲料水・非常食を常備している。また事業所だけでなく3月には法人全体としての避難訓練を行っている。	避難訓練を年2回春と秋に利用者と一緒にしている。備蓄は水やボカリスエットの粉末、エンシュア、お菓子などを数日分用意している。地域にはいざという時のお願いの挨拶はしている。また近隣に数名の職員が住んでいるのでいざという時に連絡がつくようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者との馴染みの関係を大切にしながらも人生の先輩としての尊厳の念を忘れず名前は苗字で呼びプライドに配慮した暮らし方を心がけている。	法人理念の「個の尊厳」の実践に努力し、トイレ誘導や入浴のお誘いの声掛けに気を付けている。また、利用者の残存能力を發揮して頂くため、「待つケア」の徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の出来る事は自身で最大限して頂き、出来る事までお手伝いするような過剰な介護はしないように努めている。本人の思いや希望をくみ取り支援している。本人の希望等は介護計画書に取り込み職員全員が把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合った生活ができるよう状態を把握し支援する。支援内容は介護計画書に取り入れ統一した支援を行っている。買い物や散歩などできるだけ希望に沿った対応をしている。朝食等、その方のペースに合わせ時間をずらすなどの対応も行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。訪問美容サービスを受けているが望む店に行かれる場合は支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に応じた食事を提供し食べる楽しみを維持していただけるよう食事支援・見守り等に努めている。準備や片付け等食事過程全般を楽しんで頂ける支援も行っている。イベント時は利用者様と一緒に作り楽しむ。今年度からは業者によるオープンキッチンでいつもと違う雰囲気のお食事を提供。	食事は、業者が調理した料理を温め、盛り付けて提供している。また、利用者は食べる事が一番の楽しみになっており、イベントを企画し、そうめん流しをしたりタコ焼きやお好み焼きをして、利用者と一緒に食べ楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算し栄養バランスに配慮した食材を利用し摂取量・水分量を記録一人一人の状態や習慣に応じた支援を行っている。状態の変化がある場合には医師に相談し指示を仰いでおり、栄養補助ドリンクやミキサー状にするなどの援助を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず一人一人の口腔状態に応じた口腔ケアを行っている。状態の変化によりカンファレンスを実施し口腔内の清潔を保っている。義歯の不具合など必要な場合、訪問歯科の往診も対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握することで排泄の失敗やおむつの使用を減らせるよう支援する。介護記録に基づきカンファレンスを行い支援内容の統一を図り介護計画の見直し・変更・実施を行っている。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握している。病院からおむつを付けて入居してくる人がここでオムツが取れたり、自宅でリハパンを汚していた人が、声掛けによってリハパン自体を使う枚数が減ったという事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防する為1日1200cc～1500ccの水分補給に努めラジオ体操等による適度な運動、医師指示等による食事内容の工夫等を行っている。一人一人個別に援助内容を計画している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は個人浴槽で週2回入浴している。全ての利用者の介護計画書に「入浴支援」の項目を設け、それぞれ課題と目標をあげ希望に合わせた支援に努めている。	入浴は、基本週2回午後に入ることができるよう支援している。1日2・3人が入浴し、体調を見ながら順番を決めている。また、この度購入したリフト浴で、重度の利用者も入浴している。季節に合わせてゆず湯やしょうぶ湯等で入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく休息したり眠れるよう環境を整え支援しており身体状況の変化等に応じ適切な支援が行われるように継続したカンファレンスを行い状況把握に努めている。定期的にはリネンの洗濯・洗濯干し・昼寝の時間の確保		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬局から頂いた薬の情報を確認し服薬の支援と症状の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に目的支援を計画し実行することで日々の生活に張り合いや喜びをもてただけよう支援する。計画の内容は本人の希望や能力に応じカンファレンスにより話し合っ決定、変更を繰り返している。今年にはコロナ禍により、職員同行で買い物支援・散歩・し好品の提供等は自粛となる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通常時は外出時などに買い物支援、お天気の良い日は近くに散歩に出かけたり、庭先で外気浴をしていただいたり、家族様に協力頂く事で外出、外泊、外食など外出支援を具体化し援助をしているが、今年にはコロナ禍の為外出は自粛していただきましたが、庭先での外気浴、施設近くの散歩は楽しんでいただけるよう努めている。	コロナ禍で外出を自粛していたが、事業所の周りを散歩したり、お庭でおしゃべりしたりして外気浴を楽しんでいた。コロナ禍が5類になった事で出かけやすい雰囲気になり、事業所では外出の計画を立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の能力に合わせて金銭支援を行い関わりをもって頂いている。お金に対しての不安を感じられないよう適度なお金が入った財布を持っている方通帳の写しをお渡ししている方など不安がないよう対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の希望能力に応じて対応、支援している。現在は携帯電話を利用されている方はいませんが必要な時はご家族への取次ぎ、お話が出来るよう支援しています。また年賀状、暑中見舞いなど個々の能力に応じ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は家庭的な雰囲気になるよう配慮し季節の行事毎に飾りつけの工夫をしており居心地よく過ごしていただけるよう努めている。台所は調理している所が見えるようになっており常に職員との会話が飛び交う環境になっている。	玄関に七夕の飾りがあり、季節感を感じられる。リビングにある大きなテーブルで、利用者はホーム手作りのカルタを楽しんでおられた。また、利用者によって静かな場所が好きな方やにぎやかな場所が好きな方がおられるので、物の配置だけではなく空間づくりにも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルやソファなど自由に使用し過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある家具を本人やご家族の好みに配置され写真を飾るなどその人らしい生活空間作りをご家族や本人と相談しながら行っている。	6畳の洋室にエアコンとベッドが備え付けられており、利用者は其々思い入れのあるモノをもちこんでいる。中には家族の写真や、昔利用者作った作品を飾っている方もいる。部屋の掃除は、早出の職員が毎日する事になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・廊下・浴室・トイレ等に手すりを設置し自立した生活が送れるようにしており、居室内に必要な場合は御家族様と相談し対応している。又各居室に職員手作りの利用者様のお名前プレートを掲げ場所の間違いを防ぐなどの自立に向けて支援を行っている。		